

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071200572		
法人名	株式会社 大慈会		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市西区福重1丁目5-13 (電話) 092-882-3999		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年12月26日	評価確定日	平成22年2月22日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建て		
------	------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(550,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,700 円			

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 88.7 歳	最低	80 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今津日赤病院・白十字病院・新室見診療所・やまの歯科・大塚クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「さくらの家」は、代表者自身の両親が暮らしていく「家」という考えのもとに設立されており、その方向性が具体的に示された理念が創られ、また、こだわりのある空間づくりが行なわれている。ホームの玄関前は遮るものが無く、入居者やボランティアの方々によって整備された花壇や、さくらの木が植えられており、四季折々の彩を楽しみながら、自然な交流が行われる場所となっている。施設ではない自然な時間が流れる「家」として、家族のように普通に暮していくことを大切にしながら、入居者・家族・職員での共有・浸透が育まれており、専門職としての客観的な視点の確保と両立させながら、理念の実践に向けて真摯に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の生活の場所としてのグループホームと、法律や制度との対面の機会として活用している。運営推進会議の定期開催への取り組みは、継続しての課題となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたっては、職員に確認しながら管理者によってまとめられている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	グループホームが「家」であり続けるためにも、自然な形での運営推進会議の開催を目指しており、その方法を模索している。入居者・家族・地域住民・行政関係者等が、一堂に会する機会として積極的な働きかけに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	重要事項説明書には、ホームの相談・苦情窓口を明記し、苦情対応フローチャートにてわかりやすく説明している。家族との距離感も近く、ホームの関係者を家族・親戚として、何でも話しやすい関係づくりに努めている。家族会が発足しており、親睦を深めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	「家」であるグループホームの住人として、普通の暮らしの中での普通の交流を大切にしている。町内会に加入し、地域への理解を育みながらも、あえて「祭り」等は実施せずに、日常的な関わりの中で入居者本位の交流を行なっている。職場体験学習の受け入れや認知症キャラバンメイトとしての活動等、地域における福祉拠点としての役割りを担うべく取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	開設時に運営者・管理者により、独自の理念が創られている。「家」であるべきグループホームの、目指すべき方向性を明確に示しており、社会生活の自然な流れの中で、入居者本位の普通の暮らしを支援していく礎となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	月1回の全体会議及び月2回のミーティングの実施により、事例検討等を行ないながら、理念の浸透・共有を図っている。1つ1つの課題を、広い視野から見つめる事により解決に導いていけるよう、日々取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	「家」であるグループホームの住人として、普通の暮らしの中での普通の交流を大切にしている。町内会に加入し、地域への理解を育みながらも、あえて「祭り」等は実施せずに、日常的な関わりの中で入居者本位の交流を行なっている。職場体験学習の受け入れや認知症キャラバンメイトとしての活動等、地域における福祉拠点としての役割りを担うべく取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては、職員に確認しながら管理者によってまとめられている。入居者の生活の場所としてのグループホームと、法律や制度との対面の機会として活用している。運営推進会議の定期開催への取り組みは、継続しての課題となる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	自然な流れの中で運営推進会議が開催されるよう模索している状況であり、定期開催にはいたっていない。		グループホームが「家」であり続けるためにも、自然な形での運営推進会議の開催を目指しており、その方法を模索している。入居者・家族・地域住民・行政関係者等が、一堂に会する機会として積極的な働きかけに期待したい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム さくらの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政からの研修案内を受け、できる限り参加するようにしている。実習生や中学校の体験学習を積極的に受け入れており、ホームでの暮らしを、第三者の視点で客観的な確認を行なう機会ともなっている。運営推進会議の定期開催へ向けての働きかけをきっかけとして、市町村担当者との連携が更に充実していく事を期待したい。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、これまでに活用に向けての支援を行った実績もあり、その過程において学んだことも多い。入居者家族だけでなく、見学者や介護者への情報提供を、積極的に行っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月「さくらだより」を発行し、金銭管理・請求書等とともに家族に送付している。家族の来訪が多く、コミュニケーションの機会を大切にしている。訪問当日にも複数の家族が訪れ、その距離感の近さが印象的であった。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	重要事項説明書には、ホームの相談・苦情窓口を明記し、苦情対応フローチャートにてわかりやすく説明している。家族との距離感も近く、ホームの関係者を家族・親戚として、何でも話しやすい関係づくりに努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	働きやすい職場環境づくりに努め、現状としては安定に向かっている。人と人との縁を大切に、離職や異動が発生しないよう、配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。職員のスキルアップや、自己実現に向けてのバックアップに努め、モチベーションの確保につなげるよう努めている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム さくらの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	職員はもとより、実習生やボランティアに対する教育も行なっている。事例検討や管理者独自の文書を掲示し、確認や考える機会としている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会等の外部研修に参加し、また勤務調整等の配慮を行なっている。ホームでは事例検討を積極的に行い、実践的な職員教育を行なっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入し、研修参加等を通じて交流を行い、情報交換や連絡の機会を持っている。職員間交流の機会についても充実させていく事が望まれる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族との面談により、情報収集や課題検討とともに、信頼関係づくりを行なっている。体験利用等を行い、本人にとっての最善の環境づくりを行っており、一人ひとりの状況や希望にあわせて、個別の対応を行なっている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	家族として人生の終盤に大切に寄り添い、「共生感」をもって暮らし続けられるよう取り組んでいる。本人・家族・職員の対等な関係の中で、穏やかな時間をともに過ごしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム さくらの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用し、生活歴や趣味等の把握に努めており、定期的な更新を行い、情報を積み重ねていくことで、一人ひとりの全体像に近づけるよう取り組んでいる。また独自の様式により、日常の場面を切り取って分析し、入居者の可能性の追求、またより深く知るための手段としている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向確認、関係者からの情報収集を常に心がけ、ミーティングにおいて意見を集約し、介護計画を作成している。精神面や趣味にもふれられた、個別性ある計画作成となっている。より具体的な表現を用いる事により、関係者間での共有が図りやすいと思われる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	期間に応じた見直しとともに、状況の変化に応じてその都度見直しを行なっている。現在、記録の書式・方法等を課題として検討している段階であり、今後の充実を実践や、評価・見直しにつなげて欲しい。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居に至らない場合や、在宅復帰した場合にも、その関係性を継続できるよう、訪問介護事業や介護タクシー部門を活用できる体制にある。馴染みの理容師に来院してもらったり、行きつけの床屋へ出掛ける方もおり、柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向によるかかりつけ医との、連携・協力関係を大切にしている。また複数の協力医療機関と連携し、適切な医療活用となるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム さくらの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	家族・職員とともに、将来の状態の変化の可能性について話し合いを重ねている。一人ひとりの状態に応じた、最善の環境を検討し、できる限りの支援を行っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	実習生やボランティアに対しても、入居者の尊厳やプライバシーを損ねない対応となるよう注意・説明を行なっている。記録等、個人情報の管理についても研修を実施し、周知徹底を図っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ある程度のスケジュールはあるが、その日の個々の希望や状況にあわせた対応ができるよう努めている。自然な流れを大切にされた支援が行われており、個々の習慣やライフスタイルを尊重するよう努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事のメニューは、入居者・職員で相談して決めている。希望があれば調理に参加してもらい、職員と共に食卓を囲んでいる。年1回程度、回転寿司を食べに出掛けたり、毎月のように宅配ピザを注文する等、「食」を楽しむ機会をもっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	一人ずつお湯をかえながら、入居者の希望に柔軟に対応するよう努めており、決して無理強いとならないように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム さくらの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	英語が堪能な方には洋楽の歌詞を和訳してもらったり、庭仕事の好きな方には草取りをしてもらったり、趣味としてキーボードを始めた方もいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	その日の状況や希望にあわせて、できるだけ外出の機会が多くもてるよう、柔軟な支援に努めている。中庭にもスロープを設置し、戸外に出やすい環境整備に努めている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	以前侵入者があったため、入居者・家族との相談により、防犯の意味で施錠されている。中庭へは自由に出る事ができ、外出希望があった場合には、できる限り希望にそえるよう努めている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の避難訓練(1回は、消防署立会いによる訓練)を実施しており、家族の参加・協力も得ている。リビングにスロープを増設し、車椅子等での2方向避難が可能となっている。災害対応マニュアルを整備し、浴槽の水を張ったままにする等、常日頃から対策を意識付けている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養士の資格を持つ職員により、バランス等に配慮された献立が作成されている。嗜好一覧表を作成し、一人ひとりに合わせた食事の提供に努めている。水分・食事摂取量を記録し、状況の把握に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム さくらの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	中庭に面したリビングには大きな古時計が置かれており、四季折々の風景をみせる草木や、ホームで暮らす犬の姿を眺めることができる。木の質感や障子の配置により、「和」を多用した落ち着いた雰囲気のある空間作りとなっている。床暖房やトイレに設けられているシャワー設備等、快適な暮らしへのための環境整備が行なわれている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	和室・洋室の2タイプが用意されており、ライフスタイルや状況に対応している。各居室間にはあえて死角を設け、ベンチを配置する等、プライバシーに配慮された設計となっている。使い慣れた家具やテレビ等が持ち込まれており、自室として安心して過ごせる環境づくりが行なわれている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			